

# 「ばらかもん」の日本語と英字幕

(An Analysis of the Original Japanese of “Barakamon” and Its English Subtitle)

アリエル デイヴィス

Ariel Davis

## 82-373 Structure of Japanese

始めに

私のトピックは、「ばらかもん」というアニメの分析により、日本語の微妙なところを、日本の言語と習慣が分からない観客に一体どうやってわかりやすく説明するのかを調べる。

このトピックにしたのは、特にこのアニメを分析したいからだ。このアニメの主人公は東京から長崎県の五島列島に行っているから、そこの人たちの方言と共通語の違いをどうやって英語の字幕に表すのか、調べたい。そして、主人公は書道家で、どう島の子供に扱われるかも面白いと思った。

作品は「ばらかもん」というアニメで、原作の漫画の作者はヨシノサツキで、アニメの監督は橋正紀だ。

日英語比較

日本の違いのデータ分析

### 1 : 第6話 1分40秒

なる：これを選ぶとお目が高い。

Naru: You have fine judgement, sir.

### 2 : 第6話 7分30秒

美和：先生、このもんがもうなかよ。取ってきて。  
半田：「取ってきて」って、お前年長者を顎で使う気か。

Miwa: Sensei, we're outta konomon. Go get more.  
Handa: "Go get more"? You think you can order your elders around?

一つ目の違いは、日本語の体の部分について表現だ。例文の1と2を見ると、「目が高い」や「顎で使う」という表現はあるが、英語には一切ない。

なお、例文1にはもう一つの違いがある。日本語では「目が高い」という英語の直訳は「eye(s) are high」だが、実際の英語の字幕は「have fine judgement」。しかも英語では「you」を述べ他動詞を使い、日本語では人間を述べず状態だけを示す。つまりこれは、日本語は「be」言語であり状態焦点で、英語は「have」言語であり人間焦点の一例でもある。

### 3 : 第2話3分40秒

|                         |  |
|-------------------------|--|
| 美和：こんにちは。<br>なる：美和姉とたま！ | Miwa: Hello!<br>Naru: <u>It's Miwa-nee and Tama!</u> |
|-------------------------|--|

例文3では、日本語と英語はあまり変わらないが、それはまた面白い。日本語にある敬称の音を直訳するのだ。同じく、例文2に戻ると、半田を指す「先生」を英語でそのまま「Sensei」と訳している。

### 4 : 第6話4分20秒

|   |   |
|---|---|
| なる：いただきます！<br>半田： <u>って何でお前ら人ん家で夕飯食ってんだよ。</u> | Naru: Thank you for this food!<br>Handa: <u>Wait, why are you guys eating dinner at my house?</u> |
|---|---|

例文4では、半田は日本語でとても男っぽくしゃべる。いろんな微妙なポイントにより、いかにもタメ口であることが分かる。

|        |           |
|--------|-----------|
| タメ口    | 丁寧        |
| って     | というか      |
| 何で     | どうして      |
| お前ら    | あなたたち     |
| 人ん家    | 人の家       |
| 夕飯     | 夕ご飯       |
| 食ってんだよ | 食べているのですか |

しかし英語の字幕だと、「you」でなく「you guys」だけはタメ口っぽいと思う。つまりタメ口か丁寧かは、字幕で伝わらない。

5 : 第4話 13分35秒

|                    |  |
|--------------------|--|
| 小型船舶登録検査書<br>唯我独尊丸 | Small Craft Registration Form<br><u>I am my own man.</u> |
|--------------------|--|

6 : 第4話 13分45秒

|   |  |
|---|--|
| けんた：唯我独尊ちなん？<br>巖：おお、 <u>おいちゃんが神</u> って意味じゃろうが。 | Kenta: What's Yuigadokuson mean?<br>Iwao: Oh, It mean's <u>I'm the center of my world.</u> |
|---|--|

5と6はかなり面白い英訳が表される。「唯我独尊」という四字熟語は、「我だけが尊い」という意味を持っていると言えよう。しかし、この英語の字幕はとても大事な「だけ」を述べず、単に「我が尊い」という意味だと私は思うのだ。

7 : 第5話 5分10秒

|                  |                        |
|------------------|------------------------|
| 半田： <u>寝るな</u> 。 | Handa: <u>Wake up.</u> |
|------------------|------------------------|

8 : 第11話 13分50秒

|                   |                              |
|-------------------|------------------------------|
| 半田： <u>捨てるな</u> ！ | Handa: <u>Don't toss it!</u> |
|-------------------|------------------------------|

7と8は日本語がよく似ているが、英語は場合によって違う。7では、半田がもう寝ているのに「寝るな」と言うのだが、8では捨てている神崎に「捨てるな」と言う。すでに寝ている時に、英語に字幕は「Wake up」、つまり「起きろ」と言った。しかしまだ捨てなかった時に、「Don't toss it」、つまり日本語と同じく「捨てるな」と言った。

## 9 : 第5話6分40秒

|  |  |
|--|--|
| 美和：少し休ませて！<br>半田：ったく、 <u>俺が戻るまでちゃんと書いておけよ。</u> | Miwa: Let us rest for a little bit.<br>Handa: Fine, <u>but you'll practice twice as hard when I come back.</u> |
|--|--|

この例もかなり面白いと思った。日本語の方は命令だけれど、英語の方は命令ではなく、一応の脅迫だと考えている。

### 日英語の違いの説明

まずは、日本語の体の部分について表現。これは英語にはめったにないのだが、日本語にはたくさんある。これはよく言われる、日本語は間接的で、英語は直接的であるということに関係があるかもしれない。英語では別に「order your elders around」といっても問題ないが、日本語では「目上の人に命令する」などと言わず、「顎で使う」（「use with (your) chin」）と言う。こうして「顎で使う」は婉曲表現になる。

敬称はもちろん日本語でよく使われ、名前でなくタイトルで呼ぶこともたくさんある。しかし英語でもタイトルで呼ばないことはないのだが、「Mr」や「Mrs」などしかなくて、日本語ほどそんなことをしない。だから英語に訳すと、文字通り「Miwa-nee」や「Sensei」と言う。それらは何の意味があるのか、日本語の分からない観客は察していくしかない。

次は日本語のタメ口のことだ。アニメからの例のように、例えば「私にご飯を食べます」と「俺は飯を食う」というのは意味は同じだが、ニュアンスはぜんぜん違う。しかし英語に訳すとしたら両方は「I eat rice」にするしかない。これは、日本語には丁寧さをもっと詳しく言葉で伝えることができ、英語にはできないということを示す。

「唯我独尊」という四字熟語に関する例では、英訳がその「唯」と「独」という字の意味をあまり伝えないと思う。「我が尊い」というのは誰でも賛成できると思うのだが、「我だけが尊い」というのは非常に傲慢だ。英訳にはその「だけ」というのがないということは、言っていたことをそんなに傲慢でないことにするということだ。

7と8の違いは英語の人間焦点と日本語の状態焦点の一例だと思う。日本語の方は相手が今何をしているかとはあまり関係なく、とにかくこの状況はよくないからそんなことをするなどいうのだ。しかし英語の方は、相手がいいことをしていない時と、よくないことをしている時を、言葉遣いで区別する。いいことをしていない時に、そのいいことをやらせる「Wake up」と言うのだが、よくないことをしているときに、そのよくないことをやめさせる「Don't toss it」と言う。つまり、英語の方が相手が何をしているか、そして話し手がそれについてどう思っているのかを表す。

#### 日英語の文化的見方の違い

日本語には体の部分を述べる表現がたくさんあって、英語には少ないというのは、日本語は間接的で、英語は直接的だということだ。日本文化では、できるだけ嫌なことを直接言わず、何の意味があるのかは、相手に任せる。例えば誘いを断る時に、「いや、行きたくない」と言わないで、「あ、その日はちょっと～」と言う。同じく「顎で使う」と言って、「命令」という嫌なことを述べない。

敬称は日本語にはたくさんあるが、英語にはあまりない。そして日本語の丁寧語やタメ口ははっきり区別されているが、英語にはそれもあまりない。これらは日本文化では人への尊敬はアメリカなどの英語で話す国よりももっと大事にしているということを表す。

5、6、7、8、9は全部英語圏では日本より自分のことに焦点を当てるのを示すと思う。  
5と6はかなり傲慢な意味の日本語の四字熟語を、かなり傲慢であってもそこまで傲慢ではない英語に訳す。これは英語圏では傲慢なのはそんなにひどいことではないと示すと思う。

7と8は状態に関する話し手の気持ちによって、話し方が違うが、日本語ではいつも同じだという例だったが、これもまた英語圏では自分のことを重んじるというのではなかろうか。

9も、英語ではまず自分のことを重んじるが、日本語では他の人を重んじる、という例だ。日本語の方では、話し手が自分のいない時の他人の行動を述べる。一方、英語の方では、相手が話し手のいない時に何をやるかなど一切述べず、話し手が戻る時にどういう状況になるかを言う。つまり、英語ではいつも自分の立場から考えるが、日本語では他人の立場から考える場合がむしろ多い。

終りに

まとめると、これらの例から出てきた日本語と英語の違いは、日本語は間接的で英語は直接的で、日本語には尊敬を表す文法、活用形、言葉遣いなどがあって、英語にはない。英語では大体自分のことを一番大事にするけれども、日本語ではそういうわけでは限らない。

結局これらは日本文化は人間関係を大事にするのに対し、英語例文では個人が独立しているということだ。人への尊敬を表すところのある日本語とそんなところの少ない英語を比べると、こういうことが分かる。

最後

データの出典：「ばらかもん」というアニメ。